

2020 年度サケ学研究会
オンライン特別セミナー
要旨集



日時：2020年12月5日（土）15：30～17：30
場所：オンライン開催（Zoom ウェビナー）

プログラム

15:30 開会挨拶 サケ学研究会会長 荒木仁志

15:35-16:20 講演1 「バイオロギングの今と未来 ～サケ科魚類を中心に～」
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 宮下和士

16:20-16:30 休憩

16:30-17:15 講演2 「日本遺産『鮭の聖地』の物語 ～根室海峡一万年の道程～ について」
標津町ポー川史跡自然公園 学芸員 小野 哲也

17:15-17:30 総合討論

司会進行：荒木仁志

18:00-20:30 オンライン懇親会『夜の「さけ」学研究会』（若手によるオンライン企画）

（特別セミナーに先立ち、同じオンライン会場で開催）

14:30-14:45 サケ学研究会総会

講演1

「バイオリギングの今と未来 ～サケ科魚類を中心に～」

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 宮下和士

【要旨】

近年、生物の行動を知るための技術としてバイオリギングが注目されています。このバイオリギングとは、対象となる生物に記録計を持たせて遊泳深度や水温など様々なデータを取得する技術のことを指し、それらの泳ぎ方や餌の食べ方、移動の仕方などを調べる事が出来る優れた技術の一つとして広く認知されつつあります。サケ科魚類についてもまた、バイオリギングを活用した研究が国内外で実施されるようになり、これまで難しかった彼らの野生下での行動把握も進んできました。本講演では、バイオリギングの簡単な紹介をしたのち、バイオリギングを用いたサケ科魚類の調査・研究について、特に私が関わって実施してきたものを中心に紹介したいと思います。

講演2

「日本遺産『鮭の聖地』の物語 ～根室海峡一万年の道程～ について」

標津町ポー川史跡自然公園 学芸員 小野 哲也

【要旨】

1) 日本遺産について

- ・平成 27 年度に創設された文化庁主催の制度
- ・有形無形の文化財によって証明される地域の歴史文化のストーリーを「日本遺産」として認定するもの
- ・2020 年ですべての認定審査が終了し、全国で 104 件が認定
- ・制度は歴史文化のストーリーを活用した地域活性化を目的としており、認定がゴールではなく、認定後の取り組みが重要

2) 「鮭の聖地」の物語～根室海峡一万年の道程～について

- ・根室海峡沿岸地域における人と鮭との関わりに焦点をあてた、歴史文化のストーリー
- ・『起』：縄文からアイヌ文化期に至る秋鮭遡上シーズンに合わせた海峡沿岸一帯をフィールドとするライフスタイルが続いた時代
- ・『承』：江戸時代の和人、ロシア人、アイヌ三つ巴の交渉の下、明治時代前期に鮭漁を軸とする水産業のまちとして発展する時代
- ・『転』：明治時代中期から昭和 30 年代までの天然鮭資源の枯渇に直面し、新たな資源開発を模索する時代
- ・『結』：昭和 40 年以降の鮭資源が回復し、いまに通じる根室海峡沿岸の産業が確立した時代

3) 一万年の歴史の核となる文化財 標津遺跡群について

- ・秋鮭遡上シーズンに合わせて人々が集まる暮らしが続いたことで残された標津遺跡群
- ・安定した鮭資源に支えられた狩猟採集交易民としてのライフスタイル「根室海峡サーモンエコシステム」
- ・標津遺跡群における近年の取り組みと今後の方向性

サケ学研究会 Salmon Science Society (3S) 規約（改正案）

（名称）

第1条 本会を「サケ学研究会」とする。

（目的）

第2条 サケ科魚類の科学に関する学術研究・情報の交流と普及を図り，その学術研究の発展に寄与することを目的とする。

（事業）

第3条 本研究会は，目的を達成するために次の事業を行う。

2. 研究発表会および学術講演会等の開催
3. ホーム・ページの開設
4. 関連学会との連絡および協力
5. その他，目的を達成するために必要な事業

（会員）

第4条 本研究会の目的に賛同して入会した者を会員とする。会員は次の2種とする。

- (1) 一般会員（個人）
 - (2) 賛助会員（本会の事業を援助協力する団体）
2. 一般会員は第6条の4地区のいずれかに所属する。

（入会）

2. 入会希望者は，入会申込書を事務局に提出し，幹事会の承認を得る。

（異動届および変更届）

3. 会員が住所や所属先，賛助会員の代表者等を変更したときは，直ちにその旨を事務局へ届け出なければならない。

（退会）

4. 会員が退会しようとするときは，退会届を会長に提出する。なお，会費を2年間未納した会員は自動的に退会とみなす。

（会費）

第5条 会費は，次のとおりとする。

- (1) 個人会員 年額 500 円
 - (2) 賛助会員 年額 10,000 円以上
2. 免除すべき相当の事由があると認められる場合，幹事会は第5条1項の規定にかかわらず，会費の免除を議決することができる。

（地区）

第6条 本研究会は，次の地区から構成される。

1. 北海道

道央地区（石狩，後志，胆振，空知，日高），道南地区（渡島，檜山），道北・道東地区（留萌，上川，宗谷，オホーツク，根室，釧路，十勝）

2. 他地区

道外地区

(組織と役員)

第7条 本研究会に、次の組織と役員をおく。

(組織)

2. 本研究会の組織として幹事会と事務局、役員として会長（1名）、幹事および事務局長（1名）をおく。

3. 幹事会は会長、幹事および事務局長からなり、会長が招集し、年間の事業を決定する。

(役員を選出)

第8条 本役員を選出は、次のように行う。

2. 会長：幹事の互選により決定し、会員の承認を得る。任期は2年とし、再任はない。

3. 幹事：幹事（6名以内）の配分と人選は各地区の会員数等を参考に幹事会で決め、会員の承認を得る。任期は2年とし、原則として連続の再任は1回までとする。

4. 事務局長：会長と幹事の協議により選任することとし、任期は2年とし、原則として連続の再任は1回までとする。

(非会員の取り扱い)

第9条 会員以外の者が本研究会の各種事業へ参加することは原則自由とする。ただし、経費が発生する事業については費用の負担をお願いする。

(総会)

第10条 本会は、必要に応じ総会を開催することができる。

2. 総会は一般会員の出席をもって成立し、必要事項を議決する。

(改廃)

第11条 この規約の改廃は、幹事会の決議を経て会員の承認を得る。

(補足)

第12条 この規約の実施に関し必要な事項は、幹事会の承認を得て、別に定めるものとする。

(附則)

第13条 この改正規約は、2020年12月5日から施行する。

サケ科学奨励賞規程（改訂案）

（目的）

第1条 この規程はサケ学研究会の研究の向上と活動の促進をはかるために、サケ科学奨励賞の受賞に関する必要な事項を定めることを目的とする。

（賞の名称）

第2条 「サケ科学奨励賞 Salmon Science Incentive Award」（以下、「サケ科学賞」という。）とする。

（受賞者の資格）

第3条 受賞者は当該年度のサケ学研究会において口頭発表あるいはポスター発表を行った満年齢40歳以下の会員とする。

（サケ科学賞選考委員会）

第4条 サケ科学賞選考委員会（以下、「選考委員会」という。）は、サケ学研究会の役員により構成する。

2. 選考委員会の委員長は幹事から選ばれた会長とする。

（受賞者の選考方法）

第5条 サケ学研究会に参加した一般会員は、選考対象の発表をすべて聴いた上で、所定の投票用紙に1名の受賞資格者を選定し投票する。

2. 事務局は投票用紙の集計を行う。

3. 選考委員会は投票結果に基づき、最優秀な発表者を受賞者として選出する。

4. 会長は、選考委員会の議を経て受賞者をサケ学研究会の場で発表する。

（賞の授与）

第6条 賞の授与は、サケ学研究会の閉会時に行う。

2. 賞の内容は事前に選考委員会で決定する。

3. 賞に要する費用は特別経費「サケ科学奨励賞基金」の経費をもって充てる。

（改訂および改廃）

第7条 本規程の改定および改廃は選考委員会にて行う。

（付則）

第8条 この改正規程は2020年12月5日より施行する。

現在の役員

会 長 荒木仁志

幹 事 青山 潤，市村政樹，佐藤俊平，隼野寛史，宮下和士（アルファベット順）

事務局長 佐々木義隆

サケ学研究会の記録

第1回 2007年9月24日(土) 北海道大学水産学部

基調講演：浦野明央「海洋の生態生理学」

第2回 2008年12月13日(土) 北海道大学水産学部マリンサイエンス創世研究棟

特別セッション「サケ・マス資源の持続的利用に向けた取り組みの現状と課題」(CO: 宮腰靖之)

第3回 2009年12月5日(土) 北海道立水産孵化場本場展示研修館

特別セッション「カラフトマス研究の現状と今後の展開方向」(CO: 永田光博)

第4回 2010年12月18日(土) 北海道大学水産学部マリンサイエンス創世研究棟

ミニ・ワークショップ「野生サケ類の保全に関する研究の現状と将来展望」(CO: 帰山雅秀)

第5回 2011年12月17日(土)～18日(日) 北海道大学学術交流会館小講堂

特集「サケは新たなレジームへ？」(CO: 帰山雅秀・上田 宏・永田光博)

特別講演：阿部周一「サケ類のゲノム生物学－育種と資源管理へ向けて」

第6回 2012年12月8日(土) 北海道大学水産学部マリンサイエンス創世研究棟

特別講演：帰山雅秀「これからのサケ学 Sustainability Science の勧め－生態学的俯瞰」

指名発表：中道礼一郎「グラフィカルモデリングによる遺伝子と内分泌の発言ネットワーク推定ベニザケの産卵回帰メカニズム」

第7回 2013年12月22日(日) 北海道大学大学院環境科学院講義棟 101 室

特別講演：荒木仁志「持続可能な孵化放流事業と野生魚の共存をめざして：海外の研究事例紹介」

第8回 2014年12月21日(日) 北海道大学水産学部マリンサイエンス創世研究棟

特集「サケ属魚類の孵化場魚と野生魚の共存は可能か？」(CO: 永田光博)

第9回 2015年12月20日(日) 北海道大学国際本部大講義室 111 室

特集「サケの回遊とそのメカニズム」(CO: 上田 宏)

第10回 2016年7月23日(土) 北海道大学国際本部大講義室 111 室

特集「サケマス類の持続的資源管理に向けた最新の魚病対策」(CO: 浦和茂彦)

特別講演：永田光博「ふ化場生まれのサクラマスとサケの生態学的研究から学んだこと」

第11回 2017年7月8日(土) 北海道大学国際連携機構大講義室 111 室

特集「サケの資源変動要因を探る」(CO: 浦和茂彦)

第12回 2018年12月1日(土)～2日(日) 函館市国際水産・海洋総合研究センター大会議室

特集「『サケ』の価値の多様性を考える」(CO: 宮下和士・荒木仁志・市村政樹)

第13回 2019年11月30日(土)～12月1日(日) 函館市国際水産・海洋総合研究センター大

会議室

特集「これからのサケ学」（CO: 宮下和士・青山 潤・浦和茂彦）

特別講演：浦和茂彦「サケの原虫病」

（オンライン）

「サケマス管理の今後に関する勉強会 -遺伝的特性に着目して-」オープンセミナー 2020年11月10日（火）（Zoom ウェビナー）（共催：サケ学研究会，北大農学部動物生態学研究室，動物生態学セミナー）

演者：北田修一（東京海洋大学名誉教授）

2020 年度サケ学研究会オープンセミナー
講演要旨集

2020 年 12 月 4 日発行

発行責任者：会長 荒木仁志
発行：サケ学研究会事務局